

HyperWorks AOP中間報告

目的：咽喉部から食道へと食塊が変形しながら流動する状態での内部の応力状態を調べるために形状（サーフェース）にフィットした計算格子を生成し、変位情報を基に計算を行うことを目的としている。

方法：X線により得られた画像データを基に三次元形状に再構成したデータ（Fig.1）からHyperMeshにより形状内部の計算格子を生成する（Fig.2）。

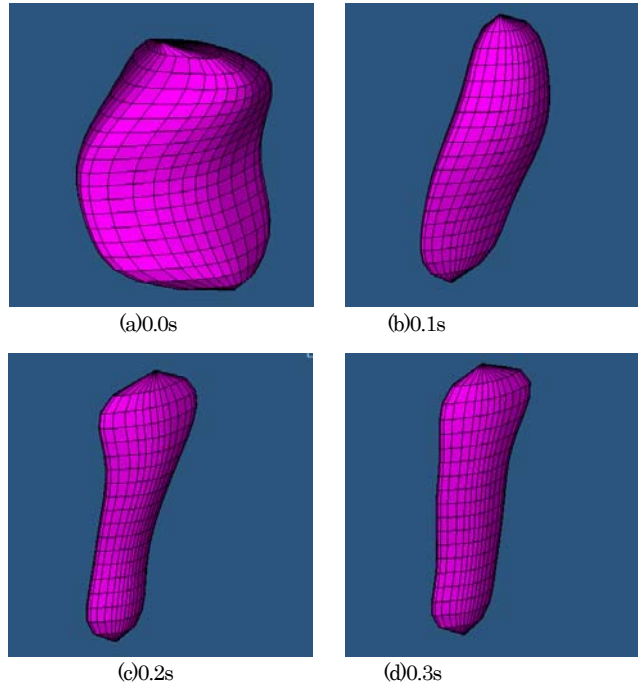


Fig.1

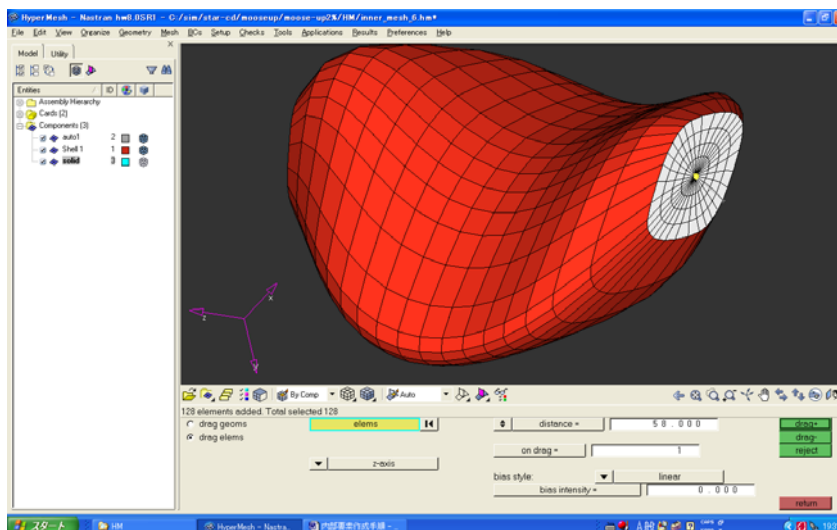


Fig.2

進捗状況：0～1.5sの計算格子の生成を行った。今後計算を行う予定である。